



はじめに

『形 forme』は広く現代社会の要求に応える美術教育の理論と実践の紹介を目的として一九五六年に創刊されました。以来六〇年を超える長きにわたって、美術教育に寄り添って刊行を続けています。『形 forme』という書名は造形と人間形成をシンボライズしたものです。子どもたちのための美術教育に取り組んでおられる先生方、美術や造形にかかわるすべての方々、そして保護者の皆様のために、これからも、よりよい美術教育を目指す道標となる内容を目指していきます。

Index No.327

③ 特集 カラフル イズ ワンダフル 多様性のある教室

・横浜市立本牧南小学校校長 谷口なおみ
・図工で育つ自己肯定感・他者理解 長谷川俊充／坂口 萌
・奥村高明

⑨ ABC PICK UP 阿部宏行

⑩ 村上センセイの 教科書利用のススメ | 第5回 | 大阪府 羽曳野市立河原城中学校 中島 嵩

⑫ こうすればこわくない! 高校 観点別評価

⑭ まず見る | 第30回 | うずきをみる 成相 肇

⑯ 「高校生の美術」コンテンツ紹介

アートディレクション：清水 一（東京ピンボン）

編集・ディレクション：山本武義（東京ピンボン）

デ ザ イ ン：東京ピンボン

表紙について



様々な存在が共存する世界。個と個が触れ合いながらお互いを知っていくことで、尊重し合う社会になっていきます。それぞれが何者であるかにかかわらず、人として向き合い手を取り合ってつながっていく—そんな世の中になることを願います。

ページ下部に、それぞれのコーナーと校種の関連性の強さを表示しています。各企画は小・中・高全ての校種に関連がありますが、特に関連の強い校種を大きくしています。

例： | 小 | 中 | 高 | 特に小学校に関連の強いコーナーを表します。

カラフル イズ ワンダフル

多様性のある教室

子どもたちがそれぞれの色を尊重し合い、新しい色をもつくりだしていく—そんな社会へ一歩でも近付くために教室でできることは何でしょうか。自分と他者を認め合いながら成長できる場はどのようなところでしょうか。一緒に考えていきましょう。



横浜市立本牧南小学校校長
谷口 なおみ 先生

共生社会が始まるのは教室から。 子どもたちの未来のために、 今すぐ教室でできること。

図画工作が果たす役割

学校や学校経営の中でそうした往還を生み出す機会はいくつかの授業や行事にあります。図画工作は、すべての児童が他者から認められ、活躍できる教科の一つです。『学習指導要領』の図画工作の目標の中には、「つくりだす喜びを味わう」という言葉があります。解説にはこの部分について、「自分の存在や成長を感じつつ」「友人や身近な社会との関わりによって、一層満足できるものになる」と記されています⁽²⁾。これは、「つくりだす喜びを味わうことが、自己肯定感と他者理解の往還を生み出すことにつながる」ということではないでしょうか。

そう考えると、技術的な「上手／下手」を強調するような題材や指導を行うのではなく、発想やアイデア、工夫のよさを指導者が価値付けていくことが大切だと分かります。たとえば、横浜市教育委員会・図工研究部で考案した「アートシート」は、美術作品に自分で考えた題名やその意味を書き込む鑑賞の題材。一人ひとりの見方や考え方の違いを感じながら、そのよさを十分に感じることが出来ます。

(1) 「つくりだす」とは「つくりだす」ということ。
つまり表現と鑑賞の両方が含まれています。
(2) 文部科学省(二〇一八) 小学校学習指導要領(平成一九年告示) 解説 図画工作編 日本文芸出版 一五頁

未来を担う子どもたちに今、必要なこととは？
横浜市教育委員会で児童・生徒指導を担当し、現在、小学校校長として活躍される谷口先生に共生社会実現の力ぎをお聞きしました。

ルーツだけが多様性？

今や共生社会の実現は世界共通のテーマであり、教育の現場でも社会とつながりともに未来をつくる子どもたちを育てていくことが求められています。私が校長を務める本牧南小学校は横浜市の港湾エリアに位置し、二〇二二年度は全校児童二七二名のうち約一四％が、外国籍・海外にルーツをもつ子どもたち。祖国は一二か国にも及び、肌・髪・眼の色も母国語もさまざまな児童が同じ教室で学ぶ、まさに多文化共生を絵にかいたような小学校です。今日では本校のような小学校は少なくありませんが、そういった子どもたちが真に協働的に学ぶためには、まずは教師が人々の多様性を理解し、なぜ多様性の尊重が必要なのかを子どもたちの目線でひもといていかなければなりません。そして、「そもそも多様性とは何か」を考えると、児童のルーツの違いなどは多様性の一例ではないことに気付かされます。

多様性ある教室を楽しもう

図画工作は、自分を認め、他者を認め、多様性を尊重する心を育むことのできる教科です。掲示してある作品一つひとつからその子らしさが感じられるとき、教室は多様性が尊重されている場になっているのでしょうか。
子どもたちは、一人ひとりが異なる個性と可能性をもつ存在です。多様な子どもたちがいる教室を楽しむことは教師にとって大切なことであり、それが共生社会を担う子どもたちを育む第一歩になるのではないのでしょうか。

いろいろな
子どもたちがいる
カラフルな教室や学校を、
先生も子どもたちも
楽しめるといいですね。

横浜市立
本牧南小学校校長
谷口 なおみ 先生



元横浜市教育委員会 人権健康教育部 人権・児童生徒課職員。
図工研究部員として図工教材の研究開発等にも取り組み、
2020年4月より現職。

お互いを認め合うために

私たち公立小学校の教師が触れ合う児童は同じ学区内に住んでいるというだけで、家族構成も家庭環境もさまざまです。何より、子どもたちは一人ひとりが異なる人間であり、それぞれが個性をもち、それぞれの未来に向かって歩んでいく存在です。そう考えると、子どもたちは生来、多様な存在であり、学校、特に小学校や中学校は元々多様性のある場所ではないのでしょうか。

子どもたちの「多様性を尊重する態度」を育てていくには、同じ学校、同じ教室で学ぶ友だちと自分との違いを知り、お互いに認め合う心をもてるようにすることが大切です。そして、お互いに認め合う心には、自分のよさを自分自身で認められる「自己肯定感」が不可欠だと思います。自分に自信のない子が、友だちのよさや違いを認めることは難しいでしょう。

横浜市では教育委員会が策定した『横浜教育ビジョン二〇三〇』に基づき、

小中学校の九年間にわたる教育課程全体で「自分づくりに関する力」の育成を目指しています。そのきっかけとなったのが、二〇一七年の『全国学力・学習状況調査』でした。この調査で「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」と答えた小中学生の割合が、横浜市は全国に比べ低い傾向にあったのです。本校の児童を対象とした独自調査でも同じ傾向が見られました。そこで本校では「自己肯定感を高める児童の育成」をテーマに、どんなアプローチの授業をする子どもたちが自分のよさを実感できるかを探索してきました。自分のよさを自身で認められるようになるためには、一つには他者から認めてもらうことが大切です。つまり、自己肯定感と他者理解は往還的に行われ、それによって共生社会を支える多様性を尊重する心が育まれていくと考えています。

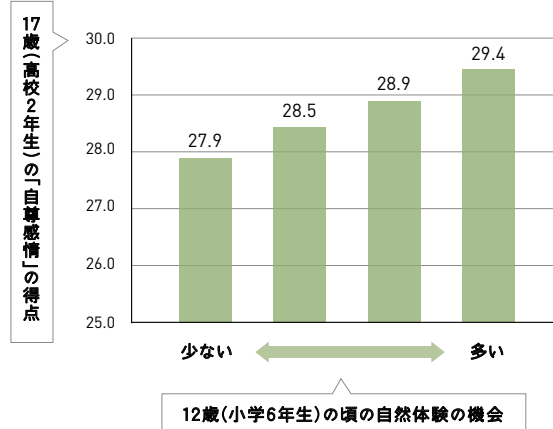


「体験」が果たす、子どもたちへの影響とは？

文部科学省『21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)』および『令和2年度 青少年の体験活動の推進に関する調査研究』では、小学生の頃に体験活動(自然体験、社会体験、文化的体験)や読書、お手伝い、異年齢の相手と遊ぶ機会が多かった子どもは、高校生の時点で自尊心(自己への肯定感・満足感)や外向性、精神的回復力といった項目の得点が高い傾向が明らかになりました。この調査結果は、小学生時代の体験は長期間が経過してもその後の成長に好影響を与えることの証左であり、その好影響は家庭の経済状況に左右されないことも判明しています。

材料に触れ、用具を使って自ら表現したり、友だちの作品や美術作品を鑑賞したりといった「実体験」を通して資質・能力を育む図画工作は、自己肯定感を高め、多様性を尊重する心を磨くうえで、今後ますます大きな役割を果たすと言えるでしょう。

「体験活動」の影響



その他詳細はこちら [文部科学省 たっぷり体験](#) [検索](#)

どう環境づくりがいいの？

「それ、いいね」「あなたのそれもすてきだね」と認め、
認められることが自然とおこる環境づくりをしましょう。

机を向かい合わせにして



お互いの活動が自然に見えるようにすると「それいいね」「どうやったの」と対話が生れます。見せ合ったり教え合ったりすることが往還を生み出します。

材料置き場をつくる



材料を取りに行くときに、席の離れた子と対話が始まったり、通りにいる友だちの様子を見たり。「何してるんだろう」「面白そうなことしてるな」と、友だちの表現への関心が高まっていきます。

ときにはぐっと集中も



子どもたちが自分の表現に夢中になっているときは、無理に友だちとつなげない方がよいでしょう。自分の決めたゴールに自分で到達することも、自己肯定感の高まりには重要です。

どう声掛けをすればいいの？

一人ひとりの発想や工夫を認める声掛けを続けていると、学級全体でもその言葉が飛び交うようになります。子どもたちの表現を、先生も一緒に楽しみましょう。

「その発想面白いね」「そんな使い方したんだね」

「上手／下手」ではなく、その子のユニークさを認めてあげましょう。「すごいね」「さすがだね」という言葉も。何より心をこめることが大切です。



「友だちを参考にしてもいいよ」

「真似をしない」「自分だけで考えなさい」だけでなく、友だちのよさを見つけたのなら、それを認めてあげましょう。似ているものをつくっているようでも、その子なりのこだわりが出てくるはずですよ。

「どうしたいの？」

接着などで困っている子どもには、思いや考えを確認するところから始めましょう。その上で「こういう用具があるよ」と提案するのがよいでしょう。

「そこからどうするの？」

次の発想を促し、自分で考えていけるように声掛けをすると、自分でゴールを見つけてたどり着くことにつながります。それは自信につながります。



横浜市立間門小学校
坂口 萌 先生

豊かな発想を育むために授業を思いきり試せる場にする
こと、また先生も子どもたちからの刺激で変わっている
しなやかな部分をもつことが大事だと思います。



横浜市立荏田西小学校
長谷川 俊充 先生

植物を育てるように、いつか花を咲かせてくれることを
信じて、水をあげたり、日に当てたりと環境づくりをする
のが大切だと思っています。

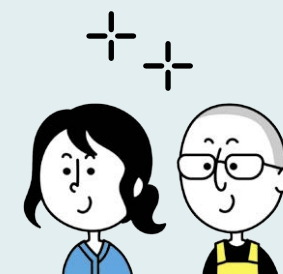
図工で育つ

自己肯定感

発想・工夫
のよさ

他者理解

図工の中で自己肯定感の高まりと他者理解を往還させるには、子どもたちの「発想」や「工夫」のよさを価値付けることが大切です。そのために授業で意識していることについて、「題材」「環境」「声掛け」の視点から、横浜市の二人の先生にお話を伺いました。



どんな題材がいいの？

一人ひとりの発想や工夫が見えると、そのよさを価値付けることができますよね。そんな視点で題材を見てみましょう。

試しなが
ら表し
たいこ
とを
見付
ける



試していると「こんな形ができた!」といった発見があります。自分で見付けたことだから、自信ももてるし、友だちの発見も認めてあげることができます。仕組みから発想する工作も、動きを試しながら考えるといいですね。

- 1・2下 p.12-13 「にぎにぎねん土」
- 3・4上 p.8-9 「絵のぐ+水+ふで=いいかんじ!」
- 5・6下 p.16-17 「くるくるクランク」

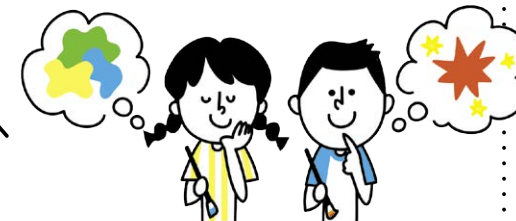


一人でも
友だちと一緒
にやってもいい

造形遊びは、一人でしたいことを追求してもよし、友だちと協力してもよし。「私はこんなふうにしたよ」「同じ材料なのに全然違うことができるね」と、紹介したり認め合ったりする場面があちこちに見られます。

- 1・2上 p.38-39 「いっぱいつかって なに しよう」
- 3・4下 p.24-25 「つなぐんぐん」
- 5・6下 p.22-23 「自然を感じるすてきな場所」

気持ち
を表す



高学年になると「そっくりに表せない」ということから自信をなくす子もいます。でも気持ちや心、音など見えないものは、一人ひとりの感じ方が違って当たり前。その子なりの表し方や感じ方を「そう感じたんだね」と認めてあげられます。

- 5・6上 p.14-15 「心のよう」
- 5・6下 p.20-21 「音のする絵」



気軽に
取り組める

小さな紙に「いいな」と思ったものをどんどん表していく題材は「こういうものを見付けたよ」「これが好きなんだね」と互いの見方や感じ方の違いがよく伝わります。「よく見てるなあ」と感心することもしばしば。

- 1・2下 p.8-9 「おはなみ スケッチ」
- 5・6上 p.8-9 「絵の具スケッチ」

ABC PICK UP

4コマ漫画で、子どもや図工のことを学べるABCシリーズ。
ここでは、同シリーズから毎号のテーマに合わせた内容を選んでご紹介します。

今回は「図工のABC」p.22をピックアップ！

「上手い！」だけでは

教師の言葉かけが子どものやる気や学力に関係しています。

言葉かけが「上手」だけになっていませんか。他に「よくできました」「がんばれ」も、どこか他人事です。子どもの心に届く言葉を考えましょう。「すてき」「すごい」「いいね」「すばらしい」「かっこいい」などは大人でもうれしい言葉です。本当に子どもの活動に心打たれたのなら「すてき」や「すごい」は素直に出てくるでしょう。しかし、口先だけの言葉はすぐに見透かされてしまいます。

「こいいね」「表したいことが、今までより、はっきりしたね」など具体的なよさや工夫をとらえて言葉をかけましょう。子どものよさの「すごい」が「さすが」に変わるということは、賞賛から尊敬や信頼が生まれたといえます。

図工の時間に「わあ、すてき！」が響き合います。

※このコーナーは、ABCシリーズからピックアップしたページを基に、再編集して掲載しています。



ABCシリーズのラインナップ



ABCシリーズは公式Webサイトで全編をお読みいただけます。
また、冊子をお送りすることもできます。



著者紹介 あべひろゆき 阿部宏行

1954年生まれ。札幌大学女子短期大学子ども学科教授。中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教育部会委員、同芸術ワーキンググループ委員（平成29年）、文部科学省「学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者主査（小学校図画工作）」（平成29年）などを歴任。北海道教育大学岩見沢校教授を経て現職。

「多様性のある教室」はそこにある — 学びの縁が溢れる図工の時間 —

世界中に一人しかいなかったら、その人は「私」を感じることはできないでしょう。なぜなら、「私」とは「他の誰でもない私」という意味だからです。「私」という概念は「他者」がいて初めてはじめて成立します。「私」と「他者」は、どちらが欠けても成立しないいわば限りなく同義語に近い存在なのです。

自己、個性、多様性……教育でよく用いられる言葉ですが、これも同じです。人々が同じ空間にいて、何か学習や活動を行うことではじめて成り立ちます。自己、個性、多様性などをバラバラにして、因果関係のように結び付けるのは本来的に変な話なのです。

「自分を大事にする」「個性を尊重す

る」「多様性を理解する」それはその通りで、学ぶことも大切です。ただ、掛算の九九のように「学んだらできる」というものではありません。繰り返しすぎると「個性的でなければ自分じゃない」「多様であらねばならない」など強迫観念をもつ恐れもあります。

そんな無理をせずに、自己肯定感を感じながら、互いの個性を認め合い、多様性を理解する学習はないのでしょうか？ 難しい言葉や理屈ではなく、学びの中で実感できる活動にはどのようなものがあるのでしょうか？ 強制的な話し合いではなく、展開し続ける学習の中で、友だちと認め合ったり、私を感じたりする教科は何でしょうか？

図画工作は、材料や場所に出会い、形や色に働きかけ、イメージを生み出しながら、図画工作らしい「見方や考え方を獲得する教科です。そこには、自分らしい感覚や行為と同時に、他者との対話や認め合いなどがあります。子どもたちは、「けっこう素敵な自分」「自分じゃないところをもっている友だち」など、学習活動を通して、かけがえない私と、大切な他者という実感を得ています。それは、言い換えれば「自己肯定感」や、「他者を認める心」であり、「多様性の理解」なのです。図画工作は、そんな「見方や考え方」も獲得しています。そういう学びの縁が溢れる教室を「多様性のある教室」と呼びたいと思います。



文：奥村高明

日本体育大学
児童スポーツ教育学部 教授

1958年宮崎県生まれ。小中学校教諭、美術館学芸員の後、文部科学省教科調査官として学習指導要領の作成に携わり、現職。日本文教出版Webマガジン「学び!と美術」執筆者。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。これからも「図画工作・美術」を応援します。



小学校図画工作教科書



中学校美術教科書



高等学校芸術科美術教科書

ねらい

導入

展開

他者の意見を取り入れながら伝達のデザインを追求

様々な作例を示し、
なぜひと目で伝わるかを考えさせる

「教科書に載っている作品のほかにも、自分が海外旅行をした際に撮影してきた珍しいものや最近新しくできたピクトグラムなどを数多く紹介。これはどんな意味だと思っ？などとクイズ形式にして答えさせると生徒の興味や関心を引きます。その後、指導書の動画を活用し伝達のための工夫などについて紹介します」（中島先生）。

パソコンの
充電不足に注意！



トイレットペーパーが
なくなったら交換しよう！

1 モンダイを考え、ワークシートに書き出す

まずは各自、学校の中で感じる『モンダイ』について考え、ワークシートに書き出す。それを班で共有し、班員の意見を聞きながら見方を広げ、それぞれが図案化する1案を決定する。生徒同士の話し合える雰囲気づくりも大事に。



2 アイデアスケッチを班で共有する

どんな図案にすれば伝わるかを考え、アイデアスケッチを描く。それをまた班で共有し、他者に対してどのように伝えるのが効果的か（注意・禁止・推奨・促しなど）意見を聞きながら構想を練る。



3 パソコンまたはタブレットで本制作に入る

パソコンまたはタブレットでの制作は、図形の活用により単純化を意識することができ、形や色彩の変更が容易なので試行錯誤にも時間が割ける。他者の意見を取り入れられるよう、単純化、強調、省略のデザインなど、造形的な面でもお互いにアドバイスするよう促す。



4 班単位・クラス全体で発表&鑑賞会

各自の作品を班単位、次にクラス全体に発表。「これはどんな意味でしょうか？」と尋ねさせ、主題を当て合うクイズ形式の鑑賞会も面白い。『モンダイ』について他者に共感してもらうことが自己評価にもつながる。



令和3年度版中学校美術の教科書、どう使う？

村上センセイの教科書利用のススメ

第5回

教科書の著者である村上尚徳先生と全国の先生が、令和3年度から使用されている教科書の題材をもとに、どんな授業展開ができるかをご紹介しますコーナー。生徒の興味を引き出し、新たな気付きや感動に導くアプローチなど、指導のヒントが満載です。



美術2・3上 P.38-39 単純化・強調で情報を整理する ひと目で伝えるための工夫

造形的な視点

わかりやすい、親しみのある
ピクトグラムの特徴は何だろう。



【学びの目標】

具体物や行為を表す形の特徴などに着目し、伝達のイメージなどをとらえ、絵の具などの特性を生かし、見通しを持って表す。

伝えたい内容やイメージ、伝える場面などをもとに、形や色彩などによる伝達の効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。

ひと目で伝わるピクトグラムなどをデザインすることに関心を持ち、意欲的に取り組む。

準備物

- 教科書 ・ 指導書動画
- 発想・構想、鑑賞のためのワークシート
- パソコンまたはタブレット

造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標 発想や構想、鑑賞に関する目標 主体的に学習に取り組むための目標

造形的な視点 題材ごとに掲載している造形的な視点は、指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいてほしいことを示しています。



むら かみ ひさ のり IPU・環太平洋大学副学長
次世代教育学部教授
岡山県出身。岡山市立中学校教諭、岡山県教育庁指導課指導主事を経て、文部科学省教科調査官、及び国立教育政策研究所教育課程調査官に。平成20年の中学校美術、高等学校芸術（美術・工芸）の学習指導要領改訂に携わり、2011年より現職。

中島 課題出しやアイデアスケッチ、本制作中にも班で共有し、その都度他者の意見を取り入れながら作品を仕上げていくようにします。

村上 伝達のデザインなので、要所所で他者の意見を聞く必要性が出てきます。初めて見る人に勘違いさせる部分はないかなど、他者の視点を確認しながら制作を進めるのは、対話的でより深い学びにもつながっていくと思います。

中島 同じ主題でも、禁止として伝えるのか、別の行動を促すのかなど、表し方によって受け取り手の気持ちや態度が変わってくる。そんな気付きも、班で意見交換させる中で、生まれてくるよう促せるといいのかなと思います。

村上 そうですね。また、初期の段階では主題の意味が分かるかどうか、下書きや完成前の段階では、強調、省略といったデザイン的な部分にも着目してアドバイスをし合うのもいいですね。それぞれの段階で意見交換をする際の着眼点についてもしっかりと押さえて意識させるようにすると、最終的な作品の完成度がより高まると思います。

ポイント②
他者の意見を取り入れながら仕上げる

村上 作品を仕上げるだけでなく「他者に伝わる」「共感してもらう」ということをいかに実感してもらうかも大事。なので主題設定では、生徒が共通して課題に感じるような問題について、しっかり考えさせられるといいのかなと思います。

中島 前年度の作品などから、数点ピックアップしておけるといいですね。

村上 あと、作家の作品だけでなく、同じ中学生がつくった参考作品なども見せられるといいですね。主題に共感が持て、それが面白いとなれば「自分もつくってみたい！」と気持ちがノッてきます。

中島 前年度の作品などから、数点ピックアップしておけるといいですね。

学校の中の課題探しで共感を生む

ポイント①
授業における学習の「核」とは何か、2つのポイントを語っていただきました。



なか じま たかし 大阪府
羽曳野市立河原城中学校
大阪府出身。羽曳野市立中学校教諭、大阪教育大学附属平野中学校教諭を経て、2020年より現職。現在、大阪府公立小・中学校美術教育研究会中学部長、日本教育美術連盟夏期研究会実行委員も務める。

高校

観点別評価

～生徒一人一人を見取るためのメソッド～

高校では「観点別学習状況の評価」の明記が義務付けられ、現場からは戸惑いの声も上がっています。生徒全員を余すところなく見取るにはどうすればよいのか。「高校生の美術」シリーズの著者である村上先生と中村先生の対談の模様を、グラフィックレコーディングによる図解と併せて掲載します。

観点別評価、ここがポイント

中村 中学と同様に高校でも3観点についてABCで評価することになり、今現場は「どうやったらいいんだろ」と慌てている状態です。3観点で評価する際のポイントはどこにあるのでしょうか。

村上 まず「知識・技能」においては、造形的な視点をしっかりと押さえながら技能を働かせているかがポイントです。例えば単純に見たままの色を塗るのではなく、暖かい表情を出すために黄色や赤を混ぜようかな、というように、造形的な視点を意識できているかどうか大切です。

次に「思考・判断・表現」ですが、これは鑑賞・発想・構想がポイントとなります。例えばビクトグラムをデザインするとしましょう。最初に様々な既存作品を鑑賞し、そこに込められた思いを読み取って、その上で発想・構想しデザインする。そして皆の作品を鑑賞し、ビクトグラムは単純化されたものでありながら情報を豊かに伝えるものだという学びが残る。その理解の深まりが重要です。

最後に「主体的に学習に取り組む態度」ですが、これは単に一所懸命さを見るのではなく、発想・構想・技能・鑑賞の能力を身に付けようと、試行錯誤しながら、能動的、主体的に取り組んでいるかがポイントになります。生徒の工夫する態度や試行錯誤も含めて見ていきたいですね。

題材名に「ねらい」を込めて

中村 「思考・判断・表現」で発想・構想のお話が出ましたが、私は題材名に「何をねらいとしているか」を入れ込んで、生徒が発想・構想に関する目標を理解しやすいようにしています。例えば題材名を「風景を描こう」ではなく「私の気持ちにのり入りの場所を描こう」と光と影を意識して奥行き感を出そう、のようにすると、少し長くなってしまうですが、生徒はこの授業全体が何を評価される題材なのか捉えやすくなります。

村上 確かに「粘土で手をつくろう」とだけ言われても必要感がないですし、どうせ自分はリアルにつくれないからと意欲を失う子もいるでしょう。またそのような題材設定では、最終的には再現性でしか評価できなくなってしまうと思います。

中村 私は同題材のときには「手は口ほどにものを言う」自分らしさを手の形で表そう、という題材名にしました。「何をしよう」だけではなく、「何を学ぶのか」を題材名に載せていくようにしています。

村上 美術教育で大事なことは「主題の生成」です。表したいことは何なのかを考えて造形的な視点を意識して発想・構想する。それが抜けるとどうしても技能中心の授業になってしまいます。「表したいことを見つけて表す」。そこがやはり大事なところだと思いますね。

漏れなく見取る座席表メソッド

中村 実際に評価するシーンでは、クラス四〇人いたとして、全員にABCを付けていくと、それだけで授業が終わってしまふ、という声も聞きます。

村上 そこで授業の前半は、Cの状態にある生徒を見つけて、その子たちに対してアドバイスしていきましょ。まずはCの子をBに押し上げていく指導をすることが大事なんですね。作品が完成に近付くと質的に優れた存在が見えてくるので、その子たちにはAを付ける。こうするとスムーズにABC評価ができます。もちろん、授業後に提出された作品からも見取り、ワークシートと作品を照らし合わせた思考の深さなどで評価を修正することもあるでしょう。そこは臨機応変に見ていきたいところです。

それから、座席表を記録簿にして「正」の字を書いて評価していく手法もオススメしたいですね。

中村 その手法を実際にやってみましたが、正の字というのがとてもいいですね。一覧性があるので、フォローすべき生徒がすぐに見つかります。そしてよりよくなった生徒については、例えばCを消してBと書くのではなく、一画ずつ足していけばいいので時短になり、その分の時間を指導に割くことができます。四〇人学級でも恐るるに足らず。生徒の名前のリストから座席表に流し込めるデータも用意しましたので、みなさんに活用いただけたらうれしいですね。

主体的な学びを生む空気感

中村 座席表での評価にプラスして、私は全員発表・全員展示を心掛けています。「この作品は何というタイトルで、こういう意図でつくりました」と全員に発表してもらうんですね。展示も、一部の作品をセレクトするのはではなく、全作品をフラットに並べる。そうすることで、生徒たちの多様性を認める態度や自己肯定感、創造活動へのモチベーションが向上するように感じています。

村上 それは、主題を大事にしている授業だからこそですね。お互いの発想・構想を認め合えるような授業であれば、生徒たちもそれぞれいいところを理解してもらえるので、他者からの評価に対する納得感を得られやすくなります。

中村 発表会でも、発表する生徒にみんなで拍手を贈り、受容的な場をつくるように心掛けています。美術の授業では、他の生徒の制作や発言から、発想・構想の広がりを得ることもあるので、肯定的な空気感、主体的な学びにつながるように思います。

評価に使える
座席表の
データは
こちらから



村上 尚徳



IPU・環太平洋大学 副学長
次世代教育学部教授
岡山県出身。岡山市立中学校教諭、岡山県教育庁指導課指導主事を経て、文部科学省教科調査官及び国立教育政策研究所教育課程調査官に。平成二〇年の中学校美術、高等学校美術（美術・工芸）の学習指導要領改訂に携わり二〇二一年より現職。

中村 美知枝



東京都出身。一九八八年より東京都立高校教諭。二〇二二年よりフリーとなり、現在は東京都公立学校時間講師として教壇に立つ。高等学校学習指導要領（平成二二年告示）芸術（美術・工芸）編 美術編改善協力者。

守随 佑果



グラフィックレコーダー
愛知県出身。二〇〇五年より幼稚園教諭を四年間務めたのち、絵本の出版社・保育園運営会社を経てフリーランスに。二〇一八年よりグラフィックレコーダーとして活動を開始。保育士・幼稚園教諭・絵本専門士・JPTC 読書アドバイザー・日本心理学会認定心理士。

グラフィックレコーディングとは：議論や対話などの内容を絵と文字と図で記録し、リアルタイムで可視化する方法。

俯瞰的、直感的な理解につながる手だてとして様々な場で注目を集めている。

大七カにしたいポイント

生徒の中に学びを残すために…

何を評価する？

→何を指導する？

主体的に
学習に取り組む
態度

もっとよい
形や色は
ないかな？

鑑賞
発想
構想
技能
態度

知識
技能

思考・判断
表現

発想や構想の
指導を
しっかりと行う

題材の設定で気を付けたいこと

描くだけでなく発想や構想を大切に
題材名と指導の立て

目標
指導
評価

自画像

表情は？
ポーズは？
角度は？
背景は？

題材名の工夫

「自分らしさを表そう」

「〇〇」な私を描こう

ココ大切

再現ではなく表現へ

発想・構想の
指導をしなれば
言評価も
できないな…

効果的な評価方法

～Cの生徒をなくしていくために～

Cの生徒を
見付け
悩む

Bへ
声かけ
アドバイス

できていない生徒を見付けて伸ばし
授業改善を目指す

例えば…「効果的に記録をするために」

記録簿の
工夫

悩んでいる子を見え化するために

Excelなどで
つくっておく

教室

正の字
カえでいく

座席表を
つくっておく
方法

例えば…「生徒一人一人の意図や工夫を理解するために」

こんなことを
考えていたのか！

↓
評価へ
つなげる

全員が
完成作品の
発表をする

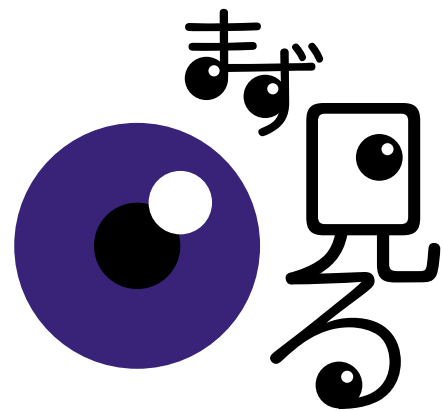
こういうこと
面白いね！

指導の改善の
ために評価を
生かしましょう

まずは題材名
から変えてしま
しょう

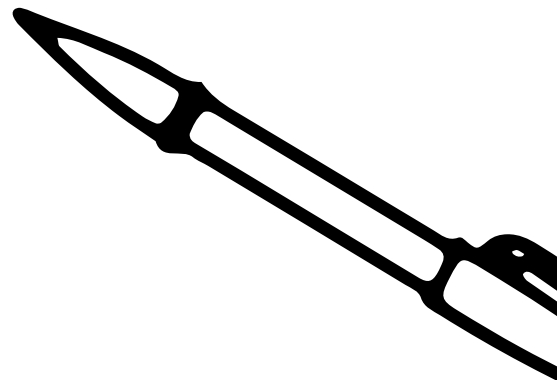
村上 尚徳先生

中村 美知枝先生



第三十回

誰もが知っている作品や、初めて出会うもの。いつもの見方はいったん忘れて、一緒に新しい見方を試してみよう。それまで見えなかった作品の一面が、見えてくるかもしれません。



今回は少々趣向を変えて、美術作品ではない市井の表現を取り上げることにしましょう。見て面白く、考えさせられるものはもちろん美術作品に限りません。

さて、例えば私信やサイン色紙の類における宛名の書き方で、「○○へ」の「へ」にチョンチョンと二本の線を引いた独特の文字が使われることがあります。小学生の娘に聞いたところ、友だちが書いているのを見たことがあるというので現在でも生きている文化のようですが、あのチョンチョンは、一体なんなのでしょう。

調べてみると、言語学者による詳細な考察がウェブ上にありました⁽¹⁾。装飾の役割、親愛の情を込める表現、文末の句読点のように区切りをつけ

る役目、など実に幅広い説が挙げられています。文中で笹原宏之氏が指摘されているとおり、種々の要因が複合的に絡まりあって定着したものでしょう。

俗に手書きは気持ちやぬくもりが伝わるなど言われますが、たったこれだけの小さく短い線によって、意味を超えた感情や機能が託されていることがとてもいじらしく思えます。あたかも、やむにやまれずうずく、原初的な体の動きが端的に現れているようです。「与えられた物質にいくつかの力が共に作用すると、その物質には生命が吹き込まれ、緊張が現われる」⁽²⁾——カンディンスキーが線の組み合わせの原理を述べていた言葉が思い浮かびます。ここでは、鈍角に折れ曲がった「へ」(例えばこ

のゆるく折れ曲がった文字の形そのものが、「へ」というゆるい音声を示しているかのようです」と、それに対して斜め方向に反復して刻まれた線との交差が生む「緊張」が響きやリズムとなって、情感に結び付いていると言えるでしょう。

印刷が普及する以前に文字を記していた者にとって、文字というものは意味内容よりも線の「質や調子や力動性」が大切であったと述べるのは人類学者のティム・インゴルドです。「感情や意見は「書く」手の動きに〈描き出され〉、それが生み出す軌跡へと〈刻み込まれ〉ていた」⁽³⁾。しかし現代にあつてなお、「書く」の中に、人の身ぶり、行為、力や運動の痕跡を示す「描く」が刻まれている例は、「書きなぐる」とか「走り書き」

うずきをみる

◀
「する」といった慣用句がまさに示しているとおり、いくらでも見付かります。

ここで、手書きで引いた線には気持ちが入るという一般論になってしまつては後戻りです。今回取り上げた「へにチョンチョン」は、内側から盛り上がる体のうずきのようなものが、規定の文字を逸脱してまで形となっていることが特別に思えたのです。ある決まった形式の中に収まりきらない力があふれた事例には、ほかにどのようなものがあるのでしょうか。

(1) 笹原宏之「漢字の現在」第五四回「サンタさんへ」に点々々(二〇〇九年十二月二十四日)／第五五回「年賀状の」様」にも点々々(二〇一〇年一月七日)／第五六回「点々」のもつ意味(二〇一〇年一月十一日) いずれも三省堂辞書ウェブ(https://dictionary.sanseido-pub.co.jp/)「点々」の項目より。
(2) ヴァシリイ・カンディンスキー／宮島久雄訳「点と線から面へ」ちくま学芸文庫(二〇一七年)一〇頁。
(3) ティム・インゴルド／工藤晋訳「ライネス 線の文化史」左右社(二〇一四年)二〇〇頁。

文

成相 肇 なりあい・はじめ

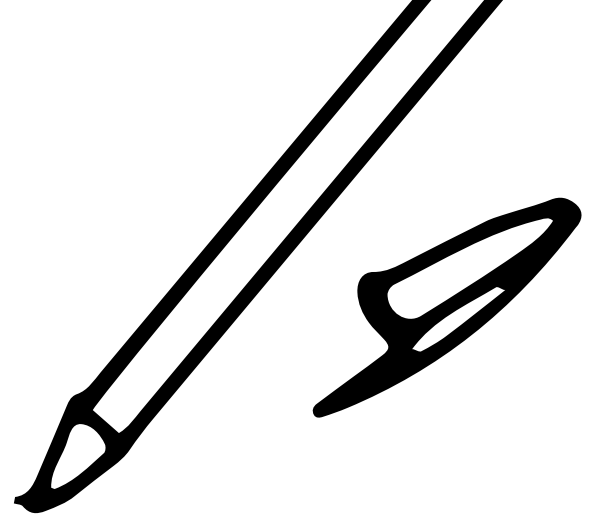
東京国立近代美術館主任研究員。
一九七九年生まれ。府中市美術館学芸員・東京ステーションギャラリー学芸員を経て、二〇二一年から現職。
主な企画展に「子順造の世界」(「ディスカバー・ディスカバー・ジャパン」)「パロディ・二重の扉」など。

〈今号のひと言〉

今回挿図に掲げたサイン色紙は、インターネットオークションの海を漂っていたものから買い求めました。どなたか存じ上げませんが、色紙を手放されたゆきえちゃん、ありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。



東京国立近代美術館展覧会情報
「ゲルハルト・リヒター展」
(二〇二二年六月七日〜十月二日)
※予定



ゆきえちゃん